**降誕節第7主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年２月11日**

**「神がなさる業を妨げることはできない」**

**詩編102章19節**

**102:19 後の世代のために／このことは書き記されねばならない。「主を賛美するために民は創造された。」**

**使徒言行録11章1～18節**

**11:1 さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。**

**11:2 ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、**

**11:3 「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」と言った。**

**11:4 そこで、ペトロは事の次第を順序正しく説明し始めた。**

**11:5 「わたしがヤッファの町にいて祈っていると、我を忘れたようになって幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天からわたしのところまで下りて来たのです。**

**11:6 その中をよく見ると、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。**

**11:7 そして、『ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい』と言う声を聞きましたが、**

**11:8 わたしは言いました。『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にしたことがありません。』**

**11:9 すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言ってはならない』と、再び天から声が返って来ました。**

**11:10 こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。**

**11:11 そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。**

**11:12 すると、“霊”がわたしに、『ためらわないで一緒に行きなさい』と言われました。ここにいる六人の兄弟も一緒に来て、わたしたちはその人の家に入ったのです。**

**11:13 彼は、自分の家に天使が立っているのを見たこと、また、その天使が、こう告げたことを話してくれました。『ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。**

**11:14 あなたと家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる。』**

**11:15 わたしが話しだすと、聖霊が最初わたしたちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。**

**11:16 そのとき、わたしは、『ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける』と言っておられた主の言葉を思い出しました。**

**11:17 こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができたでしょうか。」**

**11:18 この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。**

**一人の人がイエス様こそがキリストである、救い主であると信じて信仰の告白をし、洗礼へと導かれるのを目の当たりにするのは私たちにとっても大きな喜びであり、何よりも教会にとって大きな喜びです。私自身が洗礼を受けた時を振り返って考えてみますと、名張教会の牧師を始め教会の皆さんが大変喜んで下さいました。そして私がキリスト者としてまた牧者として歩みを進めていく中で多くの受洗の場面に立ち会いました。また、牧者として洗礼を授ける恵みを経験しました。洗礼というのは授ける側も受ける側も、そしてその恵みを共にする教会も大きな喜びをいただくのです。そしてそこで感じる喜びというのは他にはない大きな喜びです。**

**それは今まさに神様が働いておられることを身をもって経験するからです。私たちの思いをはるかに超えた神様の大きな御業が今まさに目の前で行われている。共にイエス様の永遠の命の中に入れられる恵みです。「ああ、救われて良かった」。それは決して人間の業ではない、ましてやその人に洗礼を進めた人が偉いのでも何でもない、神様の大きな愛の御業がなされていることを知らされる、私たちはその大きな恵みを共に分かち合うのです。だからこそ、洗礼を受ける人が与えられるというのは心揺さぶられる大きな喜びの出来事なのです。**

**異邦人コルネリウスに聖霊が降り、聖霊の賜物が与えられました。それは「イエスは主である」との信仰の告白が与えられたのです。コルネリウスたちは他の国の言葉でイエス様の十字架と復活の福音の言葉を語り、神様を讃美しました。ペトロたちはその様子を見て神様はこの異邦人たちも私たちユダヤ人と分け隔てなく愛して下さり、同じ賜物を与えて下さったと確信して洗礼を授けたのでした。こうしてコルネリウスたちは異邦人キリスト者として歩みを始めることになりました。ペトロたちはコルネリウスの願いに応じて一緒に食事をして共に御言葉の恵みを分かち合ったのです。**

**「異邦人コルネリウスたちがイエス様を主と告白してペトロによって洗礼を受けた」この噂はカイサリアから遠く離れたエルサレムにある最初の教会にまで届きました。ではエルサレムの教会の反応はどうだったのか。やはり私たちの教会のように「ああ、あの人は救われたんだ。良かったね～。」と受洗者が与えられたという心揺さぶられる喜びを分かち合えたのでしょうか、というのが本日私たちに与えられた御言葉です。**

**その1～3節にこのように記されています。**

**「11:1 さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。**

**11:2 ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、**

**11:3 「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」と言った。」**

**エルサレムの教会のメンバーは皆ユダヤ人です。ユダヤ人キリスト者です。ユダヤ人ですので皆が割礼を受けています。割礼を受けることがユダヤ人にとって大切なことであり、割礼を含めた神様の律法を守ることが大切だと信じていました。彼らはヤッファで幻を見る前のペトロと同じで異邦人を汚れた者と考えており、異邦人と交際することは汚れることだと考えていましたので一緒に食事をすることはありえないことでした。その割礼を受けている教会のユダヤ人たち、ペトロ以外11使徒と他の人々は「異邦人コルネリウスたちがイエス様を主と告白してペトロによって洗礼を受けた」という本来は喜びの出来事であるこの異邦人の救いの出来事を全く喜ぶことができませんでした。**

**「割礼を受けていない者たち」は直訳すると「あの無割礼の者ども」と割礼を受けていない異邦人コルネリウスたちを非常に軽蔑した言い方をして言います。しかも彼らは洗礼のことを問題にすることよりも「一緒に食事をした」ことを問題にしてペトロを非難しているのです。洗礼の喜び以前の問題です。「異邦人と一緒に食事をしたなんてけしからん！」とかつてイエス様が罪人たちと食事をしたことを非難したファリサイ派や律法学者たちのように、大切な教会の仲間であるペトロを非難するのです。「私たちの教会のように洗礼の喜びを分かち合えばいいのに」と思うのですが、それができないのが最初の教会の姿なのです。**

**ペトロはそのような教会に対して「事の次第を順序正しく」説明しました。わたしたちが本当に大切なことを順を追って丁寧に説明するのと同じです。ペトロは力を込めて語ります。自分が見た幻の事。コルネリウスから招かれて家に行ったこと。コルネリウスも幻を見たこと。コルネリウスたちに聖霊が降ったこと。主の言葉を思い出したこと。そして17節でこう締めくくります。**

**「こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができたでしょうか。」**

**ペトロは語るのです。これは神様の業であると。私の働きではない、神様がなさる大きな愛の業であると。そのような神様の大きな愛の業をわたしのようなちっぽけな人間が妨げることはできない。**

**ペトロが決して自分のした働きを語るのではなくて、神様の働きを、神様が働いて下さったその大いなる御業を力を込めて語るのを聞いた教会の人たちの反応が18節に記されています。これはとても興味深い反応だと思います。**

**「この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。」**

**人々は静まった、つまり沈黙したのです。ペトロの言葉を聞いて沈黙したということは、それまでずっとペトロを非難して文句を言っていたのです。ペトロが話している最中静かに聞いているのではなくて、ずっと非難をし文句を言っていたのです。それが最後の言葉までを聞いた時に沈黙した。いえ正確に言えば沈黙させられたのでしょう。自分たちは異邦人が洗礼を受けたことを喜ぶどころか、一緒に食事をしたことを非難していた、割礼という古い考え方に縛られていた自分たちがいかに小さな人間であるかに気づかされて言葉を失ったのです。そして何よりも、神様の愛の大いなる御業の前に圧倒されて言葉を失ったのです。私たちが神様の大いなる御業を妨げることは決してできない、この大切なことに気づかされた時に非難が沈黙に変わったのです。それは自分たちがペトロではなくて神様を非難していることに気づかされたからです。**

**その沈黙はやがて讃美に変わります。この出来事全てが神様の大きな愛の御業であることに気づかされた教会の人々は大いに心を揺さぶられて神様を讃美をしたのです。救いの御業がユダヤ人だけでなく異邦人にも広がった。異邦人にも永遠の命を神様は与えて下さった。神様はユダヤ人も異邦人も分け隔てなく愛して下さるお方であり、異邦人の救いの為にもイエス様は十字架に掛かってくださった。これはなんと素晴らしいことだろう。神様の大いなる愛の御業の前に今教会は讃美の声が溢れたのです。声高らかに皆で讃美をしたのです。**

**こうして教会はユダヤ人だけに伝道をするいわばユダヤ人のための教会から、異邦人にも伝道をし諸外国に出ていく世界の教会に大きく変化をしていくのです。ユダヤ人も異邦人もない、割礼の有無も関係ない、隔ての壁を取り壊してどこの国の人でも誰でもが共に神様を讃美し礼拝する教会になっていくのです。**

**今日私たちが御言葉を与えられて改めて思いますのは、私たちはそして教会は神様がなさる業を妨げることはできないことを心に留めておくことが大切なことだということです。ペトロが語るように「わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができるでしょうか」と神様の御前に謙虚になることです。私たちがそのことを忘れて人の思いで何かをなそうとするとき、それは神様のなさる業を妨げることになってしまうのです。**

**それでも私たちはエルサレム教会が古い考え方に縛られて神様の御業を非難してしまったように、今までのやりかたに固執して古い考え方にとらわれてしまうことがあります。そして新しいことを非難して受け入れようとしないというのは往々にしてあります。今神様が私たちを用いて新しい何かをなそうとしているのに、古い考えに囚われてそのことを認めることができずにお互いに非難や批判ばかりして、もの事が前に進まないのです。**

**私たちはやはり御言葉に聴くことが大事なのです。御言葉に聴いて沈黙をする。心を静めて、祈り、神様がなそうとしている大きな御業は何か、自分がしようとしていることは人の思いからではないのか、静かに神様に祈って問うて行くのです。神様は必ず私たちに御心を示して下さいます。それはすぐにではないかもしれませんが、必ず私たちに御心を示して下さるのです。そして私たちの沈黙は讃美となるのです。神様の大きな愛の御業を示されたエルサレム教会のように非難が沈黙に、沈黙が讃美に変えられるのです。声高らかに神様を讃美するのです。**

**102:19 後の世代のために／このことは書き記されねばならない。「主を賛美するために民は創造された。」と本日の旧約聖書に記されてあります。私たちはお互いに隔ての壁を作って非難や批判をするために神様につくられたのではありません。共に神様を讃美するためにつくられたのです。神様がなさる大いなる愛の御業の前に共に喜びの讃美をささげるためにつくられたのです。私たちを愛して下さる神様に共に感謝の讃美をしましょう。**